乳用牛群検定普及定着化事業

検定組合発

牛群検定だより

第5号（2009.3）

発行元：（社）家畜改良事業団　電子計算センター
〒107-0031　東京都中央区京橋1－19－8 大野ビル2F
Tel 03－3561－8191　FAX 03－3561－8166
e-mail：webmaster@liaj.or.jp　URL：http：//liaj.lin.go.jp

伸び率トップの沖縄県の牛群検定

酪農協挙げて真剣な取り組み

ここ5年間で、沖縄県の牛群検定は大躍進した。検定戸数は年度内に2戸の新規が見込まれるので47戸となり5年前と対比して（H20／H16）20戸も増え、174%になる見通しである。

これで、検定農家比率は51%となり、当初掲げた60%の目標に一層近づいてきた。

実績が上がった第1の要因は、まず牛群検定を仕切る県酪農協の意欲的な取り組みが上げられる。酪農協の理念は組合員の利益を守ること、そのために牛群検定を組合の指導事業の一環と位置づけて組織を挙げた取り組みが見られる。

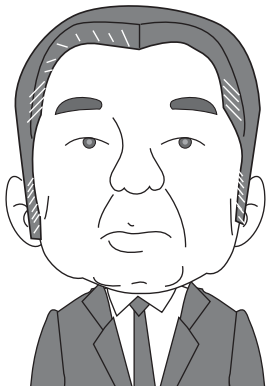
第2の要因は、牛群検定の意義や目的、役割や必要性等を検定農家に浸透させていることである。検定結果を現場で活かすノウハウが、酪農協の職員や全酪連現地駐在員によって指導されていることが大きい。

沖縄県酪農協に見られるような『目的意識を持った組合の積極的な取り組み』と『指導体制の確立』、この2つに真剣に取り組むことなしに、今後の検定事業の推進は語れないだろう。

牛群検定の実施状況

年　度	H16	H17	H18	H19	H20	H20/H16
農家数	27戸	37	44	42	45	167%
普及率	20.8%	30.3	40.0	40.4	43.3	208%
検定牛	1319頭	1650	1963	1826	1910	145%
普及率	23.3%	34.2	43.9	41.7	43.6	187%

H20年度は、平成20年12月現在



沖縄酪農の立役者･新里組合長

沖縄県の酪農家は頑張ってます

― 酪農事情見聞のあれこれ ―

26年前の最盛時、沖縄県酪の酪農家戸数が203戸、経産牛頭数は5700余頭だった。現在は92戸、3400頭余りで他県同様減少している。

エサ高騰前の乳価は117円と高かったが「沖縄の乳価が高いと羨む声があるが実情が分かっていない」と地元関係者には言い分がある。

乳価だけでなく、次のような多くのデメリットや苦労も知って欲しい、と言うのが本音なのである。

★　★　★

①戸数減少や後継牛確保が容易でないことから生乳不足が顕在化しているが、余乳が生じ九州へ搬出した場合、乳価は25円止まり（何せ輸送費がかさむ）。

②乳牛にとって過酷な高温多湿の風土で、暑熱対策は半端ではない。

特に湿度は限界の72%を優に超え80%になると、細霧システムの設置や乳牛の健康管理などに出費がかさむ。

③沖縄の牛舎には大型換気扇が多く必要。殆ど年中昼夜回し放しの状態で、平均的規模の牛群で月約30万円の出費となる。

④何よりも、土地条件に恵まれないので粗飼料も98%を購入に頼らざるを得ない。また台風襲来で被害に見舞われるので、丈のある飼料作物などは作れない。

⑤検査機器（コンビ　フォス）設置に際し酪農協は4千万円持出し。離島であるが故の単独導入、ブロック単位の広域検査体制に便乗できない。それでも農家負担を極力軽減するために検査料、検定料は本土の県よりもかなり安くしている。

★　★　★

以上、沖縄県は酪農に恵まれた土地柄ではないようだが、むしろそのハンディをバネにして頑張っている酪農家が少なくない印象を受けた。一般に、厳しい条件下の酪農家において創意工夫の堅実な経営が見られるものである。

沖縄県酪農農業協同組合

検定農家訪問

酪農協管内の、2戸の酪農家を訪問させて頂いた。酪農協を始め酪農青年部と女性部が中心になって、機会あるごとに牛乳の消費拡大運動を展開している。

日常的な活動として、牛乳に対するイメージアップを図るために特に女性部主導で牧場の景観美化に熱心に取り組んでいる。

従って、今回訪問した牧場は牛舎環境が清潔で、舎内も換気が良く乾燥して臭気がなく、牛体や牛床なども衛生的に管理されていた。

・島尻郡八重瀬町　新里重夫 牧場（組合長宅の牧場）
・組合長のご長男と奥様が管理。奥様は牛舎イコール事務所と見なし、身なりを整えるなど清潔さを重視
・経産牛46頭繋養、尿溝は自然流下式
・輪郭鮮明で、1万kgは楽に搾れる牛群であった

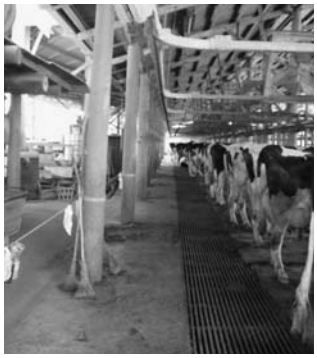
ご子息と奥様

牛舎内部　清潔 連続水槽や細霧システムも

牛舎外部　2頭に1台の割で大型ファンが

・島尻郡南風原町　赤嶺輝彦 牧場
・経産牛90頭、県内でも大規模経営の一つ
・補正乳量約9500kg、経産牛平均乳量約9300kg
・繁殖成績は大きな遅延がなく、ほぼ満足すべきもの
・糞尿を分離処理しているが、その処理が最大のネック

中央通路　粗飼料はトラクターで、濃飼は給餌機で


後通路　尿溝は自然流下式

ご主人

頼もしい酪農協青年部の活動

エサ価格等の高騰で、酪農家は2年間にわたり大変な苦労を強いられた。

やっと乳価交渉が決着して、一段落ついたと言うところであろう。

周知のとおり、乳価交渉は沖縄県が昨年11月分から全国に先駆け15円アップで妥結したことから決着の先鞭をつけたことになる。県酪農協の理事で構成する受託販売委員会、酪農協の青年部や女性部が大手の乳業メーカーや量販店回りをして、沖縄酪農の窮状を訴えて勝ち取った成果と言われる。

特に、現在38名の若手で構成する青年部は17年1月結成されたヤングファーマーズ　モアイ（模合）と命名された若手勉強会。その活発な活動は先の乳価交渉でも大きな役割を果たしたようである。結束が希薄になりがちな今日、この青年部はまとまりがよく建設的な意見を持って酪農協の発展に寄与しているようだ。

和気あいあいの座談会

最終日に青年部の新里会長、親泊前会長、役員の玉城さん、全酪連の横井副審査役、酪農協の津波古課長、香村係長、山内技師に参集願い、牛群検定への取り組みを語って頂いた。実際に検定成績表を活用している方、それを指導される方ならではの中味であった。

毎月の乳量や乳成分の動き、体細胞数の増減や繁殖遅延項目は蛍光ペンでチェックしながら改善に活かしているとのことであった。更に突っ込んだ話では体細胞数増加の原因追求、アシドーシス対策、乳質劣化や繁殖遅延などのロス分を乳代に反映させて計算してみようとか、地産地消を推進して地域の活性化を図ろうとか話題は多方面に及んだ。また、牛群管理が上手になり獣医師が暇を持て余している等、改善の跡がうかがえる微笑ましい話題も飛び出す愉快な集まりであった。

青年部代表と指導者の面々